

ダンボールコンポストで 生ごみを堆肥にしよう ～ 焼却ごみを減らそう ～



ダンボールコンポストとは？

ダンボール箱の中に基材（ピートモス、もみ殻くん炭など）を入れた簡単な生ごみ処理器のことです、安価な素材で手軽に取り組めます。

投入された生ごみは、好気性（酸素を必要とする）の微生物により分解され堆肥となります。ダンボールは、水分を外に逃がし、保温性もあるため、微生物に適した環境をつくることができます。自然界での循環をダンボールの中で再現しています。

特徴

- ・手軽に始められる。
- ・いやな臭いがほとんどしない。
- ・堆肥を生成できる。
- ・維持費がかからない。

ピートモスともみ殻くん炭



ピートモス	ミズゴケ類などが堆積した泥炭を脱水、粉碎したもので、通気性・吸水性に優れ、園芸用土や土壤改良材として用いられる。
もみ殻くん炭	もみ殻を炭化させたもの。通気性・保肥性・雑菌抑制に優れる。小さい穴が多く、微生物の住み家となる。

用意するもの

- ◆ダンボール箱 2枚
縦35×横40×高さ35cm程度
(防水加工をしていないもの)
- ◆箱の底に敷くダンボール 1枚
縦35×横40cm
- ◆基材：25L程度
(ピートモス15L、もみ殻くん炭10L[6:4])
- ◆発酵促進剤 (米ぬか等 1kg程度)
- ◆シャベル ◆布テープ ◆苗かご ◆長手袋
- ◆水 (1L程度)



作り方

① ダンボール箱を組み立てて本体を作ります

(1) 箱を組み立て、箱の隙間や・継ぎ目を布テープで全て目張りをします。耳の部分は立てた状態で隙間を作らないように固定します。

※持ち手等の穴も布テープでふさぎます。穴があると虫が入り、卵を産み付けるため。



作り方

(2) 箱の底にダンボールを敷き補強します。

→本体の完成



作り方

② ダンボール箱を組み立ててフタを作ります

(1) ①と同様に箱を組み立て、箱の隙間や・継ぎ目を布テープで全て目張りをします。耳の部分は外側に倒して固定します。

⇒フタの完成



作り方

③ 基材を入れる

(1) 基材（ピートモスともみ殻くん炭）を3：2の割合でダンボール箱に入れ、よくかき混ぜます。



作り方

④ 水を入れる

(1) 1リットル程度の水を少しずつ入れ、よくかき混ぜて完成。
水分量の目安は握ってかたまるかバラけるか程度。

注意！！

水を急に入れると基材が水をはじき、ダンボールを痛めます。



ダンボールコンポストの使い方

①ごみの投入

- ・基材の中央部を掘り、生ごみを入れて基材をかぶせます。
- ・投入量は1日に**500g**から**1kg**程度
- ・生ごみと一緒に**米ぬか**や**廃食用油**を加えると発酵が促進される。



ダンボールコンポストの使い方

②ごみの分解のために

- ・ **よくかき混ぜる**

空気を入れることにより微生物が活性化します。

- ・ **生ごみは放置しない**

生ごみを放置すると虫が卵を産みます。

- ・ **温度管理**

基材の温度は **20°C以上** が理想です。

表面に白カビのようなものが発生するのはいい状態です。

ダンボールコンポストの使い方

③投入するごみについて

分解されやすいもの

- ▶ ・野菜くず
- ▶ ・果物の皮
- ▶ ・肉
- ▶ ・魚のあら
- ▶ ・コーヒー殻 など



分解されないもの

- ▶ ・貝殻
- ▶ ・玉ねぎの皮
- ▶ ・大きな骨
- ▶ ・卵の殻
- ▶ ・トウモロコシの芯



堆肥をつくる

分解が進まなくなったら

ダンボールコンポストは、3～6か月程度で基材がベタつき混ぜづらくなり、分解が進まなくなり交換時期となります。→**1／4程度**を新しい基材に混ぜると分解が進みます。

交換時期になつたら生ごみの投入を止め、残っている生ごみを分解するために3～4日間は1日1回かき混せてください。その後は10日に1回程度の割合で水を入れてかき混ぜます。

水を入れても温度が上がらなくなつたら堆肥として使用できます。（1～2カ月程度）